

## 第17回 京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会 議事録

### 開会挨拶（益田文化生活部長）

皆様おはようございます。京都府の益田でございます。本日は皆様大変お忙しい中、また早くから、あいにくのお天気ではございますけれどもお集まりいただきまして、ありがとうございます。この間、京都府の屋内スポーツ施設の整備に関する検討のお願いをして参りまして、府立大学、向日町競輪場を実際にご覧いただきましたうえで国際大会や大規模大会を誘致する中でどのような点に留意すべきか、専門的な知見やこれまでの競技経験等からご意見をお聞かせいただいたところです。本日の懇話会につきましては、屋内スポーツ施設として求められる機能に対する御意見、整備候補地に対する御意見といった観点から、改めて御意見を聞かせていただき、議論を深めてまいりたいと存じます。限られた時間でございますけれども、御専門の立場から忌憚のないご意見をお願いしまして、簡単ではございますけれども開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 議事（1）これまでの議論を踏まえた検討について

これまでに開催した懇話会における委員意見のまとめについて説明を行った。

・前回の懇話会で真山委員から指摘のあった事項について、事務局が別途意見聴取した内容を紹介した。

<真山委員（ご欠席のため事務局から紹介）>

屋内スポーツ施設に伴う地域活性化について、地域活性化の考え方、定義についてもしっかりと検討、議論する必要があるのではないかと。地域の活性化については2種類があるのではないかと。有形（形があるもの）の活性化、無形（形がないもの）の活性化。有形（形があるもの）の活性化については、想像がし得ると考える。例えば観客数等、経済波及効果という言葉がよく使われるが、にぎわいを持って、人口が増える流入人口やいわゆる数字で表れてくるような活性化が有形ではないかと。無形の活性化については、心の活性化ではないかと。プロスポーツを見て、憧れるというような部分で心が活性化する。あとはスポーツ施設であるので、競技者がこの場所でスポーツがしたいというようなスポーツの向上心がいわゆる心の活性化であるのではないかと。

「地域」については、地域だけでなく「エリア」「対象」ということが言えるのではないかと。活性化というものによって地域の考え方も変わってくる。経済波及効果というのと、例えばエリア・地域というものはある程度限られてくるのではないかと。ただ、心の活性化ということであれば、様々な地域の方に来ていただくということを考えて、考え方が大きく変わってくるのではないかと。こういったものの組み合わせで、複合的に地域の活性化があり得るので、どのような考え方をそれぞれ持つかということ、考え方が広がって

くということも含めて、お考えいただいたらどうか。

## 意見交換

<山本座長>

説明資料の前半部分につきましては、これまでのあり方懇話会で出されました具体的な意見が記載されております。内容的にはこのように分析できるのではないかとということで、おまとめいただきました。そして今日のテーマの屋内スポーツ施設として求められる機能に対する意見、あるいは整備候補地に対する意見ということと、それぞれの候補地に関して総合計画に示されている位置づけについて説明いただきました。

ただいまの説明内容について、ご質問があればお出しいただきたいと思いますがいかがでしょうか。また、ここには記載されておりませんが本日欠席の真山委員の地域活性化の定義についての考え方のご提案が紹介されましたけれども、ご質問等あればお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

<伊坂委員>

今日の議論の2つのテーマについて、屋内施設と考えたときにスポーツに限定されないと思っております。その点について確認させていただきたい。スポーツができる施設であり、且つ様々なアミューズメント、エンターテイメントができる施設でもあると考えております。この点を確認したいと思っております。

<山本座長>

屋内スポーツを軸としている施設だと思われれます。

<砂子坂理事>

今、座長からもございましたとおり、我々は屋内スポーツ施設を中心と考えておりますが、その用途だけではなく、先ほど多機能複合的と申し上げましたように、屋内スポーツ施設を中心とした様々な機能で活用できる施設を考えております。よろしく願いいたします。

<山本座長>

それでは本日の議論のテーマであります、屋内スポーツ施設として求められる機能に対する意見と、併せて候補地に対する意見についてご発言いただければと思います。

<綱村委員>

まず、懇話会で候補地は2点に絞られていてそれ以外は考えられないのかという素朴な疑問です。これまで京都市長がそれならばということで、立候補された旨を新聞等で拝見しました。詳細は存じ上げておりませんが、京都市はどのような意見を持って立候補されたのか、その時点で意見は考慮しなく良いのか。その辺についても、それ次第で論点も変わってくるのではないかと感じておりますので、ご意見ご説明等あればお伺いしたいです。

<角田政策監>

今回候補地は2つかということですが、まず一つに、府立大学共同体育館につきましては、学生利用を大前提に多機能多目的活用を検討しております。もう一つ、向日町競輪場は、向日町競輪自体の事業存廃について話があったのですがどれも継続していくことになった。継続にあたっては、既存施設の機能や施設を集約化していくと、そこに余剰地ができるということで検討しております。今回は、いずれも府有地に府立施設の建設を検討しているということでございます。

また、京都市長が立候補されたという点について詳細は存じ上げておりませんが、京都市長が立候補というよりも、京都市内で整備をしたらどうかということの表明をされたのではないかなと受けとめております。

そういう意味では府立大学と向日町競輪場、一方は京都市地域でございますので、そこでということを抑ったと受けとめております。以上です。

<綱村委員>

この懇談会では京都市長のご意見、意思表示は配慮できないのか、検討対象にならないのか。我々競技団体からすると、良い施設ができるだけ早く、できるだけ要望に沿った形で早期に建設されるのが望ましいと考えております。個人的な意見としては、府立大学については大学との共用というところで元大学教員としては不可能ではないかと感じる。向日町競輪場については、競輪場のイメージは変わっては来ていると思うが、見学をしたときにお年寄りがいらっしゃる券売所の雰囲気を見て、新しくできる施設とのすみ分けについて危惧しているところです。例えば向日町競輪場にできると考えた際に、施設の集約となれば、どれくらいのスペースの空き地ができるのか、具体的な構想を我々にもご提示いただけるともう少し具体的に意見を述べられるのではないかと考えております。

<角田政策監>

府立大学の大学との共用部分については、我々も、もとより大学の授業を大前提に多目的な利活用ということで、どういったものができるかを検討しております。向日町競輪場の方で券売場の話をおっしゃっていただいたのですが、直接競輪場に行って車券を買うという行為が、近年かなり減ってきています。ネット投票等スマホで投票ができる時代ですので、そういう意味では券売所の老朽化がかなりひどいということで、まさに券売所自体を集約化していくなど、どれを集約化するというところはまだ具体的には決まっていますが、検討しております。

また、雰囲気についても御指摘いただきましたけども、むしろ現在はBMXということでアーバンスポーツの自転車競技では既に子供たちもたくさん来ておりまして、青少年の健全育成のための施設もできております。また、競輪場そのものを使って、高校生の自転車競技の活動もしておりますし、すでにこれまでもいい雰囲気でも共存もしておりますし、先般も平安賞ということで、本場開催でしたが、その際も、親子連れがにぎわってキャラクターショーもして、かなり人気で子供からお年寄りの方まで共存しているのではないかと考えております。以上でございます。

<山本座長>

ありがとうございます。綱村委員がおっしゃったようなご意見は、私どもスポーツ関係の方で、地域或いは種目団体の方の方々とお話する中でも出されているところです。ただ

今回の懇話会というのは、一つは純粹に京都に不足している屋内スポーツ施設を建設することについての考え方ということと、併せて、あくまで現在、提案されているのは、府有地を有効活用するという観点で府立大学と向日町競輪場で施設を作るのであればどのような機能を持った、どういう施設にしていくかということであり、一般の方から見ればまずは建設地ありきが、とのお声が正直ありますが、ここの候補地の的を一定絞りつつも、そこでならどんな機能を持ったどんな規模のどんな施設を作るかということでご意見を頂戴しているところです。

#### <上田静男委員>

候補地に対する意見として、参考資料にもありました通り、向日町競輪場は山城地域振興計画として位置付けておられることはよいのですが、ただ、向日市に作るということは京都市を排除したということではなく、京都府の中で交通アクセスが良いところ、また南北長い京都府のなかで中間的なところを取ったのではないかと思いますけれども、山城地域振興計画に引張られすぎては我々の本来の筋を見失ってしまうのではないかと思います。それと、綱村先生も仰いましたように大学は大学の自治、大学の教育の場であるというのは大いに気になるところであります。それと施設利用を天秤にかけてやはり十分に検討していくことは必要かと思います。

#### <松島委員>

屋内スポーツ施設に求められる機能に対する意見というところで私の立場から申し上げさせていただきます。先日行われましたバレーボールの国際大会であったり、バスケットボールのワールドカップであったり、身近にトップアスリート、世界的なアスリートのプレーが見られる環境を子供たちに提供することは、将来の夢を描くことや憧れをもってスポーツに没頭することに繋がる、すなわち先ほど仰っていた「街の活性化」に寄与できると思います。そのため資料に記載されてる通り、国際大会やプロスポーツ等の「見る機能」を備えた夢と希望を与える施設というところが、重要な観点だと思います。また持続可能な施設という点でも、圧倒的なエンターテインメント、圧倒的な世界観を実現できるような機能を兼ね備えることで地域の皆様の憧れとなる施設になる。複合的な周辺の施設の整備も含めて興行以外でも地域の皆様が集まれる場所になれば、経済的にも持続可能な施設という、両面を兼ね備えることができると考えます。

#### <山本座長>

ありがとうございます。今回の一つの柱である屋内スポーツ施設として求められる機能というところを中心としてご意見が出されておりますけれども、屋内スポーツ施設に期待される効能、効果については事務局からのまとめとして出されました内容ということで、一般的に言われていることだと思います。その中で京都にできたらこれまでに出来なかったことが出来るようになるとか、より実現できる可能性があるとか、土地柄なり「らしさ」「特徴」のような点でご意見をお出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### <伊坂委員>

今、座長からありましたように、「京都らしさ」というところは大事です。やはり京都は歴史と伝統があり、且つその中から革新的なイノベーションを生み出してきたという大

きな特徴を持つ町です。また、世界中から憧れを持たれるような町です。ぜひ京都ならではの、京都でしかそのようなことは出来ない、というようなものを検討していただきたい。そういうものが実感できる屋内施設になれば良いと思っております。先ほど松島委員も仰いましたエンターテインメントとか、アミューズメントにもつながります。国全体が推進している society5.0 では、リアルとバーチャルを融合させて Well-being を実現することをめざしています。本当にリアル・バーチャルが交差するような空間を体験できる「未来志向」の施設になれば、京都らしさとあわせて「未来」を発信できると考えております。そして実際のリアルなスポーツをやりながら、加えて将来的なスポーツといたしましうか、新しく出てくるスポーツも楽しめるようなものを、発展的に考えていただいたら良いと思います。

加えて、施設観点で申しますと、やはり作り方によってはコンサートをするときには4トントラックが入らないのでなかなかうまくいかないだとか、周りの動線も含めたような工夫が必要なのではないかと思っております。なので、最近大きなスタジアムで四方囲むのではなくて三辺にして欲しいだとか、もう一边はトラックつけて、移動しやすいようにしたいだとか、そのようなことが今最新で様々な事例があるのでないかと思っております。

海外の例ですが、ニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンではNBA（バスケット）、NHL（アイスホッケー）もやりますし、ボクシングもやります。多いときは1日4回興行するそうです。そのような形で、フル回転することも出来るようなものであれば、1日に1種目だけに限らずいろんな楽しみ方もできるでしょうし、そのような高機能化ということも予算の関係もありますが、是非そのようなことを考えていただきたい。もう一つ話題になっております地域との連携といたしましうか、将来の10年後20年後を見据えた開発の中で、この施設が地域のシンボルになりつつ、周りとの親和性とか、発展性が取れるようなことが計画段階からないと、後でこれを足さないといけないとか、引かないといけないとかとなるのと、なかなか難しいのではないかと思われました。

#### <上田輝久委員>

今回の議論は、ある意味なかなか難しい部分があるとは思いますが、色々なご意見がある中で、3つのステップで整理をしたらどうかと考えております。

まず第1ステップですが、まさに今回のスポーツ施設のあり方懇話会で、スポーツ施設のあり方を議論する必要があるわけですが、これまでの議論につきましては、本日の資料の1ページ目に、有識者懇話会における意見のまとめという形で、うまくまとめられていると思います。1ページ目に記載されている7項目に対して、もし不足しているものがあれば追加するというのが、第1ステップの議論のポイントになると思います。それを考えたときに、私自身が思うのは、やはり他の都道府県のスポーツ施設の整備状況と比べると、正直なところ京都は、スポーツ施設の規模という視点では、他府県の進んだところと比べると非常に厳しい現状があると思います。このため、京都の特徴を出すためには、基本的な考え方として、個別のスポーツ施設の部分最適化に留まらず、京都府、京都市など、京都の既存のスポーツ施設も含めて、それぞれの施設にどのような役割機能を持たせるかということを含めてネットワーク化するという全体最適が必要だということ、第2回目の時に申し上げました。ですから部分最適よりも全体最適というのが重要なキーワードとなる中で、そのためには複数の施設のネットワーク化をすることによって、個別の施設では他の都道府県に比べて弱いかもしれないけれども、ネットワーク化された全体のスポーツ施設では、京都は非常に特徴を持っているというふうには持っていく必要があるのでは

はないかと思えます。そういう意味で1ページ目のまとめに記載されております、下から二つ目の「未来志向」というところが、より重要なポイントになると考えております。

次に第2ステップですが、第1ステップの議論を踏まえた上で、資料1ページ目の7項目のうち、何に取り組んでいくか、そのためには何が課題かを整理して、その対策について、複数の案を考えていくということが重要だと思えます。そのような意味では、前回の懇話会の中で水野委員からご指摘があったと思うのですが、基本的に、それぞれの競技で、国際大会や国内の大会などを誘致しようとした場合、どんな条件があるかをまとめておくことは非常に重要だと思えます。例えば、バスケットの京都ハンナリーズの場合は、これからも継続していこうと思うと5,000人以上の収容施設が必要になると聞いていますが、その場合、一つの対策としては、当面は島津京都アリーナを使うことなど考えられるわけなのですが、さらにその先を見据えると、やはり1万人収容施設は必要ではないかと個人的に思っております。ですからそういう施設を作っていくのか、あるいは、そこはもう他の都道府県に任せて、京都ではそこは手掛けないというふうにしていくのかを議論しておく必要があると思えます。前回、各種競技に関わっている委員の方のご意見を伺っていると、バドミントン、バレーボール、あるいはサッカーとか、バスケットボールもそうですが、そのようなところの会長やっておられる方が多くて、それぞれの大会を誘致するには、やはりこれぐらいの規模、或いはこういう機能が必要だという思いを持っておられるというふうに理解しました。

このため、前回、水野委員からご指摘のあった、それぞれの競技でどういう大会を誘致しようとする、という要件があるか、というものをまとめることは重要だと思えます。

次に第3ステップですが、これは第1ステップ、第2ステップのまとめを踏まえて、今回の候補地である向日町競輪場や京都府立大学がその候補として適切かどうかを議論するのが良いと思えます。

第3ステップにつきましては、向日町競輪場については4ページ目に記載されていますので、ある程度のまとめができていますと思えます。

ただ、もし、1万人収容施設を作るとなったら、他に候補があるのかという議論もあるので、この向日町競輪場についてもその議論が重要になってくると思えます。府立大学につきましては、現地視察をした方は思われたのではないかと思えますが、近くには植物園もある中で、隣はお寺で、お墓もあるという状況の中では、なかなか厳しいのではないかと感じたのですが、府立大学については、1ページ目の7項目のうち、どの項目を取り込むかという議論が必要だと思えます。

その際、3つのポイントがあると思えます。まず、1つ目は、そもそも、大学のスポーツ施設はどうあるべきかを考慮するということが重要だと感じました。この理由は、現地視察の際に大学の部活動をやっている様子が伺えたことや、授業で使うべき体育館が使えていないという現状があるため、大学のスポーツ施設のあり方ということ踏まえた議論が必要ではないかというのが、府立大学を見学した際に感じたことです。

また、2つ目のポイントとして、地域住民の活用ということも考慮すべきではないかということを感じました。府立大学の周辺は、非常に利便性が高いということもあって、付近は住宅地となっていますので、地域住民の方々が上手く活用できるようなことを考慮すべきではないかということも思いました。

さらに3つ目は、新聞報道等でもいろいろな意見が出ていますが、そもそもこの北部地域は、近くに植物園があり、文化的な要素もある中で、地域のあり方を考慮した考え方が

必要なのではないかというふうに思いました。

従って、向日町競輪場については、4ページに記載されたものをベースに議論するのが良いということ、府立大学につきましては、今申し上げた3つのポイント、すなわち1つ目は大学スポーツ施設のあり方、2つ目が地域住民の活用、3つ目が北部地域のあり方ということ念頭に、さらに議論を深めていくのがよいと感じました。

<山本座長>

ありがとうございました。本当にわかりやすくまとめていただいたご意見と感謝しております。それぞれ皆さんに、資料1ページ目の「これまでの有識者懇話会における意見のまとめ」として挙げられている部分について、より具体的に深めていく必要があるのではないということから出発して、実際に何を具体的に機能させていただくかというところを、浮き彫りにしていくという必要性についてもご意見をいただいたと感じております。

関連してでもいいですし、その他の視点からということでもけっこうです、どんどんご意見いただければと思いますけれども、いかがですか。

<村上委員>

座長から京都らしい施設というお話がありましたが、前回もお伝えしましたように、京都の子どもたちのスポーツ拠点、夢の舞台という観点から、京都キッズの取り組みが夢の舞台にどのようにつながっていくのかという視点から、今回アリーナが建設されることによって、どういった規模を有することで子どもたちの取り組みの花が開くのか、施設設備については、今後様々なエビデンス等を積み上げていただきながら規模や必要な機能の部分を議論できればいいのかなと考えているところです。

<上田静男委員>

事務局のまとめていただいた資料1ページ目について、府民目線で整理させていただければと思います。中でも青少年の健全育成というハード整備の部分でも構想を練られているというところは大変ありがたいです。最近、亀岡のサンガスタジアム by KYOCERAに行きましたら、子育ての関係の行事でしたが、地域の子子どもたちがスタジアムを見て目らんらんと輝かせていました。また、京都のまち中を歩いているときには、下校途中に男の子が今流行りのバスケットボールのドリブルを真似したりしていたり、何か身近なところで日常的に目に触れるような機会があれば子どもたちも一生懸命熱を持ってくるという形になるのではと思います。ただ、その中で実際に子どもたちが新しくできるところで何かをしようと思えば、全て親の負担や自腹で行きなさいというとなると、京都府内南北遠いところからは足を運びにくいところがございますので、利活用を活性化させるようなソフト支援の施策についても十分お考えをいただきたいと思います。敢えて加えるといいますと、多機能、複合的な施設を整備するという観点よりも、スポーツの方が強調されておりますので、まとめのどこかに、京都のような中規模から大規模のコンサートなどが楽しめる環境についても要素に入れていただくこと、そしてそれを文化面の発信拠点として京都も活用するような、京都全体で活用できるような施設、そのような視点を入れて今後の検討を進めていただきたいと要望したいと思います。京都は大学のまちといいますが、概ね卒業後には8割はまた他府県に出て行ってしまうということがこの間、マスコミ情報で目にしましたので、若者がたくさんいるというなかで、若者を少しでも京都にとどめられるような魅力ある施設になれば大変ありがたいと思います。従いまして、スポーツ以外にも

文化的なコンサートもそのひとつではございますけれども、お考えいただけたらと思います。そういう意味で言えば京都の文化、ポテンシャルを最大限に活かして持続可能な京都の発展が図れること、魅力ある京都府づくりの大きなアイテムとなるような拠点施設整備、それと大事な運用方法についてこれから整理していただくことを期待したいと思います。簡単に言えば、京都ならではの視点を活かして進めていただければと思います。

<山本座長>

サンガスタジアム by KYOCERA の例が出ましたけれども、乗本委員からスタジアムができて、京都のサッカー文化が変わった等あれば教えていただきたいです。

<乗本委員>

サンガスタジアム by KYOCERA ができたということ、毎回試合の観客数は1万人を超えています。交通の便が良いと思うのと、プロのチームが現在トップのリーグでやっておられるということは大きな要素になっているのではないかと思います。それ以外にも、子どもたちが憧れる場所になれる、そのようなスタジアムになるということは現実にはサッカー協会のなかでは子どもたちも使えるように調整してほしいという意見が出ています。私はまずそこでプレー、パフォーマンスする人が一番気持ちよく使っていただける場所であってほしいと思います。今後もスタジアムのことを参考に、またいろいろな意見をいただきながら、屋内屋外で違うと思いますが、話を進めていただけたらと思います。ワールドカップのバスケットボール大会が開催された沖縄の競技場も参考にしながら選手が活躍できる競技場づくりを目指していただけたらいいのではないかなと思います。一つはこれから子どもたちが憧れる場所、そして選手が活躍できる場所を基本に考えて、アリーナを作っていただければと思います。それと先ほどあった、いろいろな形のものと呼んでくるという話ですけども、中央の競技団体と綿密に話をしながら、今回も行政と一緒に、オリンピックの代表者を呼ぼうじゃないかということをとくさん働きかけてやっています。そういうことも、新しくできるスタジアムの今後の利用には役に立つのではないかというふうに思いますので、そういうことも含めて考えていただければと思います。

<山本座長>

ありがとうございます。これまでになかったものを作り上げて、それによる効果とかマイナス面も含めて、検証していくことも新しいものを作り上げるときには大事だというようなご意見だったと思います。

<田中委員>

資料1ページのまとめをさらに深堀をしていけばいいものができるのではないかと思います。府立大学を見学させていただきました。その時感じましたことは、バラバラの建物で、学生さんが気の毒なような気がいたしました。スポーツ施設ですけども、今までほったらかしにされていたような、手入れが行き届いていないと思いました。大学の施設は、京都に一つしかない府立大学ですし、大学の施設と合わせてスポーツ施設と両方で考えられたらいかかなと思ったのが実感でございました。大変いい場所でもございますし、計画があるのかないのかはわかりませんが、一度に2つをとすることは大変費用もかかりますし、勿論無理なことはわかっておりますけれども、将来若い人、人口がどんどん

減っていきますし、京都に府立大学が一つあると、みんな若者が憧れるような大学施設とともにスポーツ施設もあるということは他の府県にないような気がいたしますし、そこに1ページ目のまとめを盛り込んでいただければよいものができるのではないかと思います。向日町競輪場も見学させていただきました。先ほどからご意見も出ておりますように、どれくらいの大きさにできるのかというのは素人では全くわかりませんし、具体的な構想を我々にもご提示いただいという思いを感想として持っております。またやはり交通のアクセスが、やはり郊外になりますとどのようになるのかという議論になると思いますが心配をしております。

#### <高木委員>

整備候補地に対する私の意見を少し述べさせていただきたいと思います。2ヶ所の候補地を見学させてもらい、私の気持ちとしたら、いろいろな反対意見がありましたけれども、こちらのエリアを整備する会とか、先日は京都新聞に、大学側からも大きなアリーナはいらないと、2,000人規模の大学生が使用するアリーナを早く作って欲しいという意見も出ておりましたけれども、環境を見させてもらったら、やはり最たる京都ブランドの体育館を作るとしたら、府立大学が圧倒的な力があるなというふうに感じました。またいろいろな反対意見がありますけれども、年末、年始、京都で行われる高校駅伝、女子駅伝、私たちは運営の立場として、賛成半分反対半分と常に思って、運営の方に携わっております。例えば、狭い京都の町、方々からのぼり旗を持って応援しに来ると、のぼり旗は、市バスとか、電車の中で邪魔になる。それを持って、往路復路を応援するという事は非常に危険だということで、高校駅伝、女子駅伝はのぼり旗を使用中止にしています。全国でやってる駅伝の中で、のぼり旗がないような駅伝はほとんどありません。というように、これからの形として、それぞれの規定ものぼり旗の応援、横断幕も含めて、そういったものはなくなっていくのではないかなと思います。それも、京都が発信しているようなつもりで私は運営に携わっております。候補地に対する反対意見もありますが、私の意見は、やはり北山のあの場所に立派なアリーナ建設を望んでいるというのが私の意見です。

#### <伊坂委員>

1ページ目に盛り込んでいただいている軸について、ビジョンとしてどう最終的に盛り込めたかどうかということが大事になります。今後、恐らく行政中心にビジョンをもとに、計画段階から、実施計画になり、そして完成後の運営段階に進んでいくと考えています。その上で、施設の持続性について長い軸線上でこれから検討されて、深めていかれるのだと思います。現在の段階は、大きなビジョンとともに計画をどうしようかという最初のところを、この懇話会で議論されているようにお見受けしました。

一方で、良いものを作りたいという思いは皆さん共通です。その中で様々な意見を合わせていくときに、行政だけでまとめきれるかというのは、もちろん専門家がおられるので、専門的な見地を入れながら、やはりどのような形で現実的にできるのかという、次のステップのところを踏み込んで検討していただくのがよろしいのでは、というのが私の意見です。当然限られた財政ですから、財政、あるいは今二つの候補地がありますけれども、その二つの候補地で作るとなったら、どういう技術的な問題、行政的な手続き、あるいは環境問題ですとか、様々な検討が要されるのではないかと思います。そのような課題の整理には、より専門的な観点で議論を検討する段階ではないかなと考えております。是非そのような形で、専門的な技術検討を加えたうえで、次回以降進めていただきたいのが

私からの要望でございます。その上で、さらに委員の先生方からたくさんのご意見をいただけてきた時に、この軸はちゃんと全部入ったなどという形のもの、備わっていると素晴らしいものになると思っております。

京都らしいなというもの、そして大学の町と言っていただきましたように、大学生が京都に来て、この建物にさわるか見るか、関わっていただいて、地元に戻った時もふるさと納税を含めて、関与人口として、また京都を愛していただけるような、そんな施設になっていただければと願っております。

<山本座長>

ありがとうございます。先ほど両上田委員さん、伊坂委員さんのご意見で、今後の進め方等について、まとめをいただいたような気がいたしました。特に今まで出された意見以外にご意見ありましたら、お願いしたいと思っております。今ありましたように具体的な経費等を含めた検討というのが十分になされていない段階であること、これから先ほど来出ておりましたスタジアム等の事例も含めた必要なエビデンスを積み上げていく中で、検討していくことが必要だということ、挙げていただいたと思っております。

一昨日、私もハンナリーズの試合を見させてもらう機会がありました。残念ながら試合は敗れましたけれども、琉球のチームで優勝候補といえます。リーグのトップの実績がある対戦相手に、前半は非常に健闘して非常に盛り上がった試合だったというふうに思っているのですが、その中で今まで一般的にスポーツ関係者はスポーツの関わり方楽しみ方として、「する・みる・支える」ということを耳にしますが、その「すること」「見ること」「支えること」の具体的なイメージというのは、それぞれ個人の持っている固定概念みたいなものがあって、実際にはもっともっと変化、進化してきているなということ、を改めて思いました。バスケットボールという種目特性があるのでしょうかけれども、見る人も、運営スタッフとして支える人も含めた総合的なスポーツ芸術というような空間でした。ただ単にプレイヤーとしてする人、スタンドで手をたたいて応援する人、誘導案内でお手伝いする人のようなことではなくて、それぞれがスポーツ活動に参加している、生きがいなり喜びなり、やりがいなりを感じながら、心をワクワク踊らせていけるのだということ、アリーナができたならより広がっていくのかなというのを改めて感じたところで、それをまた京都でどんなふうにつけていくかは、もう少しやるべきこと、まとめることも、より具体的に洗い出して、検証をしていく中で、整備に向けた検討を深めてもらうことが必要になってくるのではないかと感じた次第です。松島委員もいらっしゃいますけれども、会場入り口で入場者をお出迎えされていて、改めてチーム愛といいますか、京都のバスケットボール愛を強く感じて、思わず応援したくなるのと同時に、それを毎回やられておられということに感動したところでございます。個人的な感想ですけれども、京都のスポーツはこれまで行政的なソフト支援を中心に、指導者研修も含めて、京都のスポーツ関係者が繋がり、色々と深まり、広がりをもってきましたけれど、新しい局面としてのアリーナを通じた京都のスポーツによるにぎわいとか活性化とか、心豊かさとかいうものができる切っ掛けになればと思っております。それを是非うまく提案いただくことを行政の方へお願いしたいと考えております。まとめられませんが、もう少し突っ込んだ具体的なもの、ここでは掴みきれない専門的な見地からの検証というものも必要ではないかというご意見が出ましたので、そういったことも含めて進めていただければと思っておりますが、よろしいですか。特に他にご意見もないようですので、事務局の方にお返ししたいと思います。

## 議事（２）総括

### 京都府挨拶（角田政策監）

ありがとうございました。長時間にわたりまして貴重なご意見いただきました。本日、機能の点や整備方針の点に対して、ご意見をいただきまして、我々はまずは場所の点からですけれども、やはり立地する場所にとらわれずに、我々都道府県の立場ですので、しっかりと広域的利用を考えたらどうだというご意見の点では、「未来志向」ということでリアルとバーチャルが交差する空間というのと、複数施設のネットワーク化、これが未来志向に繋がっていくという、伊坂委員、上田委員のご意見もごございます。こういったこともしっかりと考えていかないといけないと思います。さらには青少年の健全育成や、ハードのみならずソフト施策も重要だと、こういったことも含めてコンサートも楽しめる環境、芸術文化が楽しめる施設ということで、ご意見をいただきました。最後のところでは技術的検討ということで、より専門的な観点から進めていければということで座長の方も、具体的検討にあたるまで必要なエビデンスを集めていくことが必要だということでご意見いただきました。いずれも整備検討を進める上では非常に大事な部分になって参りますので、今後の検討にあたりましては、こういったご意見を十分踏まえて参りたいと思います。またおまとめいただいたところで、今年は、WBCやバスケットボール、バレーボールのワールドカップもございましたし、これが日本開催と日本代表チームの活躍により大いに盛り上がりまして、今週の日曜日には阪神タイガースが38年ぶりの日本一ということで、関西対決も相まって、非常に大熱狂の1週間だったかと思えます。

こうした感動が、するスポーツ・支えるスポーツに伝わっていくのだなと思っておりますし、座長が最後に、さらにそれらが常に時代とともに変遷していくのだなと、これがスポーツ芸術ではないかということでおっしゃっていただきました。改めてスポーツの持つ力のすごさを感じたところでございます。

本日頂戴しましたご意見を踏まえまして、府民の皆様がスポーツに触れる環境整備をしっかりと進めて参りたいと考えておりますので、今後ともご協力賜りますようお願い申し上げますが、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

### 閉会挨拶（山副参事）

以上をもちまして第17回京都におけるスポーツのあり方懇話会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。